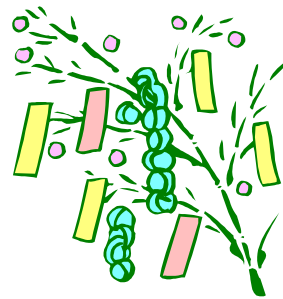


それゆけ!

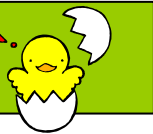
としょかんだより



2012年7月
第63号

発行所
高野山大学図書館
閲覧室

今月のピカ!?



今回のテーマは

素麺(そうめん)

夏場によく食べるものといえば「素麺」が思い浮かぶ人も多いのではないのでしょうか。素麺の歴史は古く、ルーツは奈良時代に中国から伝えられた唐菓子「索餅」であるといわれています。別名を「むぎなわ」といい、その名の通り奈良時代に伝えられた当時の形状は太い縄状で現代のような麺になったのは室町時代とされています。

「索餅」は『延喜式』や『和名類聚抄』にもとり上げられていて七夕の節句に「瘡除け」(マラリア防止)のまじまじとして内膳司から献上されていました。

今でも七夕になると素麺を食べる家庭があるのはこの事から来ているのかもしれませんが。



参考にした文献は

鳥居本幸代著『精進料理と日本人』209/シ/28

長期貸出のお知らせ

7月10日(火)より図書の本の長期貸出を開始します。
長期貸出を希望する方は貸出時にカウンターへ申し出てください
返却期限:平成24年9月28日(金)

*学外・大学院(通信教育課程)の方は対象外です

図書館にはいった月刊ランキング!!

- | | |
|--------------------------|-------|
| 1 『聖女の救済』 | 東野圭吾 |
| 2 『美木良介のロングブレスダイエット』 | 美木良介 |
| 3 『1Q84B00K2〈7月-9月〉(前)』 | 村上春樹* |
| 4 『1Q84B00K2〈7月-9月〉(後)』 | 村上春樹* |
| 5 『天地明察(上)』 | 冲方丁* |
| 6 『デュラララ!!×11』 | 成田良悟 |
| 7 『1Q84B00K1〈4月-6月〉(前)』 | 村上春樹* |
| 8 『ブレイズメス 1990』 | 海堂尊 |
| 9 『天地明察(下)』 | 冲方丁* |
| 10 『実はスゴイ!大人のラジオ体操 DVD付』 | 中村格子 |



* のついている図書は文庫本ではなく単行本で所蔵されています
塗りつぶしていない書籍は図書館にあります

2012年7月の開館予定表

| SUN | MON | TUE | WED | THU | FRI | SAT |
|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
| 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 |
| 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 13 | 14 |
| 15 | 16 | 17 | 18 | 19 | 20 | 21 |
| 22 | 23 | 24 | 25 | 26 | 27 | 28 |
| 29 | 30 | 31 | 1 | 2 | 3 | 4 |

2012年8月の開館予定表

| SUN | MON | TUE | WED | THU | FRI | SAT |
|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
| 29 | 30 | 31 | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 |
| 12 | 13 | 14 | 15 | 16 | 17 | 18 |
| 19 | 20 | 21 | 22 | 23 | 24 | 25 |
| 26 | 27 | 28 | 29 | 30 | 31 | 1 |

システム変更期間

8月21日~23日,28日~30日

*閲覧室のみ開放となります

*パソコンの使用はできません

| | | |
|--|-------------|-------------|
| | 9:00-21:30 | 13:00-21:30 |
| | 13:00-18:30 | 9:00-17:00 |
| | 9:00-18:30 | 閉館 |

館蔵古写真紹介 — 図書館 —

図書館員 木下浩良

本学図書館は旧制大学時代の昭和4年(1929)竣工で、高野山では初めての鉄筋コンクリート造りの洋風建築物であった。完成当時は、東洋一の図書館と称していた。和風建築が軒を連ねる高野山において何故、本学図書館が洋風建築となったのかは不明である。さぞかし、山内においては異風を放ったものと推察される。

他方、鉄筋コンクリート造りとなった理由は、昭和元年(1926)金堂が焼失して堂内に安置されていた弘法大師空海以来の尊像七尊が灰燼に帰したことにより、その教訓から、防火に主眼を置いた図書館建設であったことは推察される。

今では、書庫へは、学生証・利用証を提示すれば誰でも入庫が可能となったが、筆者の学生時代は、教職員と大学院博士課程在籍者のみが許されていた。しかも、入庫に際しては、いちいち入庫申請の帳面への記名が義務づけられていた。それでも、入庫する博士課程大学院生を羨望の眼で眺めたものだった。書庫から持ち出す本や雑誌は点数を、その入庫申請帳に記帳し、さらに閲覧票に請求番号・書名等もれなく記して、図書館員の点検を受けた後に、ようやく利用することができた。

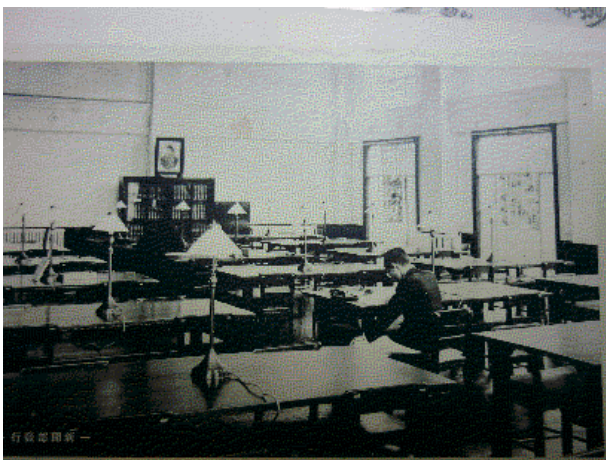
大学院修士課程・学部生・別科生は、カード目録を一枚一枚めくり、目的の本が見つかる閲覧請求票に記入して、カウンター内の館員の方に提示しなければならなかった。余談ながら、筆者の図書館でのほろ苦い思い出として残っていることがある。1回生の時、カウンター内の中でも優しいような(?)女性館員の方に、お願いしますと恐る恐る閲覧請求票を差し出したまではよかったものの、その方から、返却期限が1日遅れている本が1冊あるとカウンター越しに厳しく叱責されてしまった。今、思い出しても赤面してしまうが、それほど厳格な方針の下に図書館は運営なされていた。

掲載の写真は、図書館竣工当時の本学新聞部が発行した絵葉書に紹介のものである。当然のことながら、現在と同じであるが、よく見ると大きな違いが2点あげられる。第一が、創建当時の図書館には屋根が無かったということである。屋根ができたのは昭和31年(1956)の時であった。屋上のコンクリートがひび割れて雨漏りしたことによってできた

屋根で、それまでは屋上に上がることができた。

第二の違いが窓の枠である。これは別掲の閲覧室内の写真を見れば一目瞭然であるが、閲覧室内から外のバルコニーには、窓を開けて出入りする事ができた。現在では、西側に3つあるバルコニーは、創建当時は南面にも4つあった。

閲覧室内も現状とは違って、重厚な黒色の長机が整然と並び、レトロな電気スタンドが配置されている。写真には詰襟の学生服姿の人物が一人写し出されている。この長机や電気スタンドも、筆者が学生時代の昭和57年(1982)頃までは現役で使用されていた。



(編集後記)

最近は何の日になると冷えよりも蒸し暑さのほうが勝ってきている気がします。早く梅雨が明けてほしいです(吉)

発行所

〒648-0280 和歌山県伊都郡高野町高野山385 高野山大学図書館 閲覧室

Tel:0736-56-3835 / Fax:0736-56-5590 /

E-mail:service-lib@koyasan-u.ac.jp